

令和元年度 第1回桑名市地域公共交通会議 議事要旨

日 時：令和元年8月26日（月）10:00～12:15

開催場所：桑名市役所 5階 中会議室

出席者：委員19名

傍聴者：6名

1. 昨年度のふりかえり

①昨年度のふりかえり【資料1】

（委員からの主な意見・質疑応答）

- ・メンバーが非常に似ている都市総合交通戦略会議と当会の位置づけの違いは何か。
⇒非常に活発なご意見をいただいた都市総合交通戦略のメンバーの方をベースに今回集まっていたいている。
- ・平成30年11月長島デマンド乗合タクシーの乗降客が急激に増えているのはなぜか。
⇒長島中学校の乗車体験があったため、急増している。
- ・平成30年度多度地区のコミュニティバスの乗降客が増加している要因は何か。
⇒多度ルートは平成29年7月から養老鉄道への連絡を良くした時刻表に変更し、特に午前中の利便性向上を図ったため、増加していると考えている。
- ・今回、昨年度より増して関係される方、専門的な知識をお持ちの方にご参画いただいた。当会議で昨年度より更に深い議論をしていこうという主旨である。

2. 協議事項

①コミュニティバスの路線の見直しについて【資料2】

→次回継続協議

②消費税増税に伴う城南線の利用料金の変更について【資料3】

→承認

（委員からの主な意見・質疑応答）

- ・前回の会議内容を受け、特に長島地区から桑名地区へ乗り入れするルート、城南地区の立田太平地区へ向かうルートを交通空白地の視点も入れて、提示いただいた。多度地区から桑名地区乗り入れするルートや長島地区南部から桑名地区へ乗り入れするルートは次回、具体的に提示してもらうとして、この2ルートについて今日決めるのではなく、どうしていくと良いか、忌憚のない意見をいただきたい。

- ・市町合併以前から議論があるが、多度、長島地区は町内のみを回る路線しかなくかつ、本数も少ないため正直不便だった。

しかしながら、今回、長島地区から桑名駅、桑名市総合医療センター、桑名市役所本庁舎に直接乗り入れるルートは評価できる。

- ・事務局提案の長島ルートについて、福祉健康センターバス停、消防分署北バス停、長島中部小学校前バス停は近接しているため、そちらへ向かうメリットが無いように思える。それよりむしろ、既存の長島ルートを今回提示のルートと連絡できるように充実させ（特に長島ルート第4便）、福祉健康センターバス停（長島地区市民センター付近バス停）を起点に桑名地区へ乗り入れるルートの方が良いのではないかと。これなら運転士の時間も確保できるのではないかと。

- ・長島地区内は、長島駅、長島まちづくり拠点施設に人が集まりやすい傾向があるので桑名地区からの長島駅への乗り入れも考慮してほしい。

- ・他のルートに比べると長島ルートは全部で4便と少ないことから、増便をお願いしたい。

⇒増便すると予算がかかるので財政との協議による。今年度試験運転をして、地域の方に積極的にご乗車いただくことが重要。それらを踏まえて、さらなるニーズに応えられるようなルート見直し、検討を進めていきたい。

- ・南部ルートについては交通空白地帯を埋めてくれてありがたく思っている。

- ・城南地区で実施したアンケートにおいても買い物、通勤での利用が増加傾向にある。

- ・アンケートではコミュニティバスの必要性を訴えるが、地域住民が実際に利用するよう地元が盛り上げていかなければならない。

- ・長島駅から桑名駅までのコミュニティバスも必要であるが、鉄道を利用することも選択肢である。これからは市内の公共交通全体を見ながら議論をしなければならない。

- ・長島北部地区から桑名市役所本庁舎に入れるルートを設定してほしいが、他の便との連絡による。

- ・長島駅へ連絡するルートがあれば、乗降客増にもつながるのではないかと。

- ・伊勢大橋を通り桑名地区に乗り入れるルートは、ありがたい。

- ・ ルートの変更にあたり、バス事業者としては運転士目線での課題についてご説明させていただきたい。主に３点あり、「事故防止」「人手不足」「働き方改革」である。業務改善を目指しているが、なかなか着地点が見つからない現状がある。
- ・ 運転手の過労を無くしたい、ルートの見直しによって労働力が増えるので、ルートの見直しの際には、運転士の休憩時間、乗務時間の長さ、時間に余裕をもった運行、直行ルートの妥当性を市と協議しながら進めていきたい。
- ・ 今日の会議で多度ルートが提示されていない。遅れているのか。
⇒一度事務局からの提示を受けたが、国道 258 号線を通るルートだったので保留した。
市としては養老鉄道の利用も同時に考慮すべきだと考える。再検証した上で、次回は提示させていただく。
- ・ バスルートによってもしくは、全体としても、バス停一個あたりの平均の乗降客数や一日の乗降客数など、廃止する基準を作り、周知するべきである。
- ・ バス停に屋根を付けてほしいという要望がある。また、バス停上部の看板の印字が消えているものが多数見受けられる。
- ・ 現在、北勢線は蓮花寺駅、星川駅でコミュニティバスに連絡している。特にコミュニティバスとの連絡については現在も柔軟に対応している。今後も柔軟に対応していきたい。
⇒コミュニティバスのことがまとまったら、この会議で鉄道のことについても議論いただきたい。
- ・ 三重交通の自主運行バスが公費で賄われているのであるならば、今回、立田太平地区のコミュニティバス新ルートは料金が 100 円であることと比較すると、地域に説明しづらい。自主運行バスの桑名城南線もコミュニティバスに変えて、利用料金を 100 円にしてほしい。
⇒当時、桑名城南線が廃止される可能性を受け、議論になった時にコミュニティバスにするかの議論がなされたと聞き及んでいる。しかし、コミュニティバスにしまうと今の便数を運行することができないため（減便になるため）、市から委託するという方法にしたと聞いている。
- ・ 本日提案されたルート案について、今回の意見を十分に参考にされ、また、未提示の多度地区から桑名市役所、桑名市総合医療センターへ乗り入れるルート、長島地区南部から桑名市役所、桑名市総合医療センターへ乗り入れるルートを具体的に提案してください。
- ・ 消費税増税に伴う城南線の利用料金の変更については異議がありませんので、承認とする。

3. 報告事項

- ①地域公共交通について 活発で良い議論ができる会議のために【資料4】
- ②これからの公共交通のあり方について【資料5】

4. その他

- ・市内高齢者の免許返納について【資料6】

(委員からの主な意見・質疑応答)

- ・高齢者の免許返納者に対する施策は、何が効果的であるか迷っている。
次回の会議でご教示願いたい。
- ・高齢者の免許返納について、三重県は全国に比べて返納率が非常に悪い。加えて桑名署管内はさらに悪い。桑名署としては、運転経歴証明書の発行手数料を市が補助するなど、市からの支援を市長に要望する予定。
- ・福祉と公共交通は、三重県としても大きな課題であるにとらえている。来る9月20日「福祉と公共交通」をテーマにセミナーを開催予定。